

佐倉市立佐倉小学校 GIGAスクール構想の実現へ

GIGAスクールとは、令和元年12月に文部科学省が発表した一連の教育改革案のことです。

**GIGAは「Global and Innovation Gateway for All」
(全世界とイノベーションへの扉をすべての子どもたちへ)の略語です。**

GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

※文科省「GIGAスクール構想の実現へ」より

佐倉市GIGAスクール構想学びのイメージ

学びのステップアップ



ステップ4 個別最適×協働的な学びで主体的・対話的な深い学びの実現

- ・児童生徒がICTを活用して自ら学習状況を把握し、主体的に学習を調整する。
- ・異なる考え方をICTを活用して組み合わせ、より良い学びを生み出す。
- ・予測不可能な未来社会の形成に参画できる学びを児童生徒と教師で創る。



ステップ3 ICTを活用し、児童生徒が教師と共に学び方を決める

- ・AIドリルで学ぶ。
- ・様々な情報を主体的に収集、整理、分析する。
- ・推敲しながら長文を作成する。
- ・写真や音声、動画などを用いた多様な資料、作品の作成。
- ・つながる相手を自ら選択して協働する。

ステップ2 ICTを活用する(児童生徒が効果的に学べるよう教師が学び方を支援する)

- ・動画や写真を撮影する。
- ・インターネットなどを使い、検索する。
- ・小テストをタブレットで行う。
- ・文章を作成する。
- ・作品や意見へ相互にコメントする。
- ・新聞などをクラウドで共同製作する。
- ・情報を共有する。

ステップ1 ICT機器操作ができる

- ・機器の使用方法や取り扱い方について知る。
- ・基本的な技能を身に付ける。
- ・情報モラルについて学ぶ。

“すぐにでも” “どの教科でも” “誰でも”使えるI C T

🌱 検索サイトを活用した調べ学習

- ・一人一人が情報を検索し、収集・整理
- ・子供たち自身が様々な情報にアクセスし、主体的に情報を選択する



🌱 文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用

- ・子供たち一人一人が考えをまとめて発表
- ・共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合い



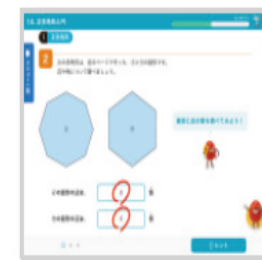
🌱 一斉学習の場面での活用

- ・誰もがイメージしやすい教材提示
- ・一人一人の反応や考えを即時に把握しながら双方向的に授業を進める



🌱 一人一人の学習状況に応じた個別学習

- ・デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化
- ・様々な特徴を持った生徒によりきめ細やかな対応を行う



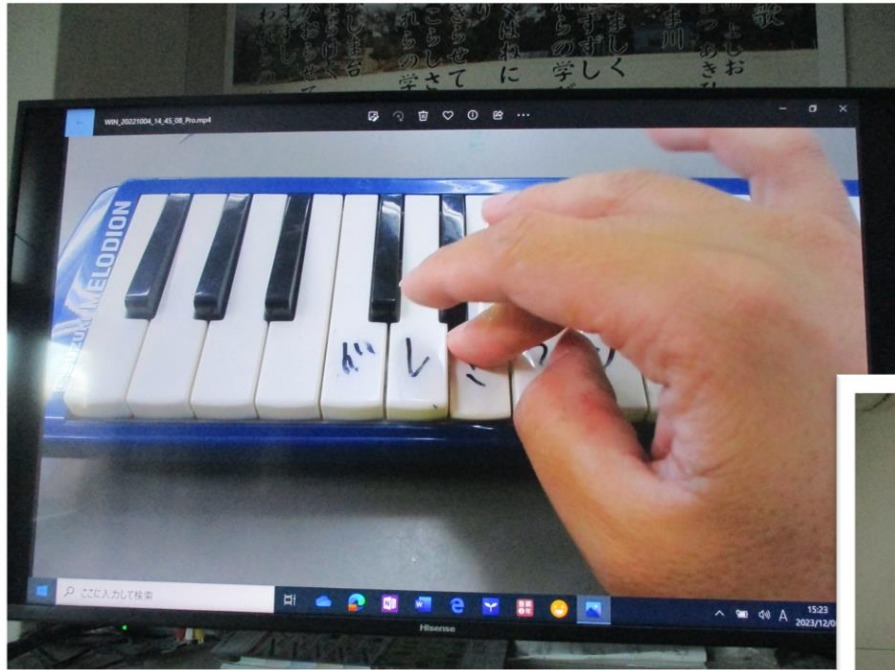
※文科省「GIGAスクール構想の実現へ」より

佐倉市GIGAスクール構想に向けて

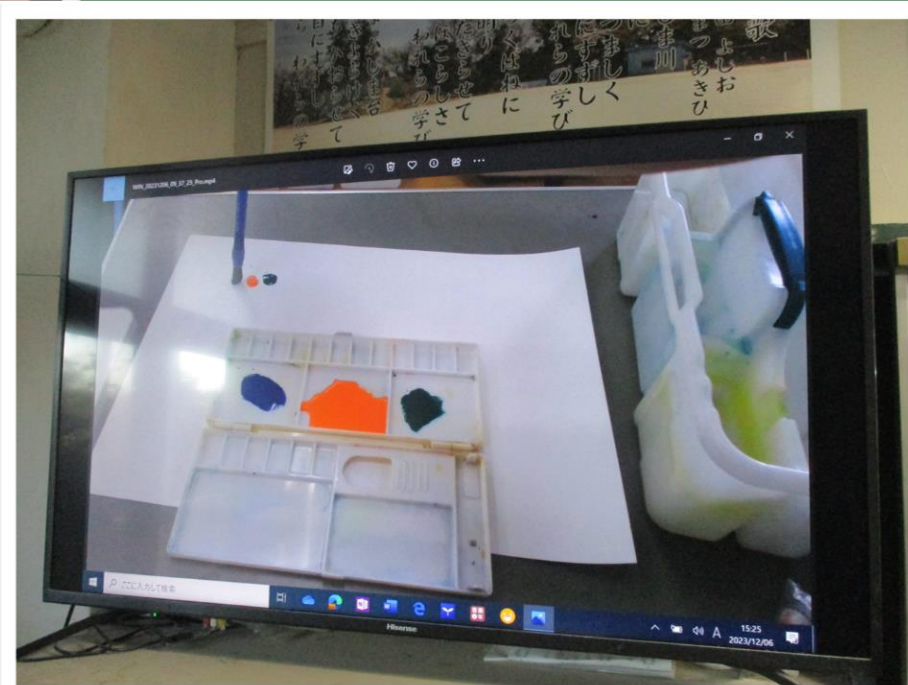
＜令和7年度の予定＞

時期	予定
令和7年9月	学習用タブレットパソコンの 全台置き換え（iPad）
令和7年12月	校内ネットワークの置き換 え・増強

佐倉小実践



動画撮影機能を活用した
技能教科の提示



佐倉小実践



担任とICTサポーターによる
TT授業



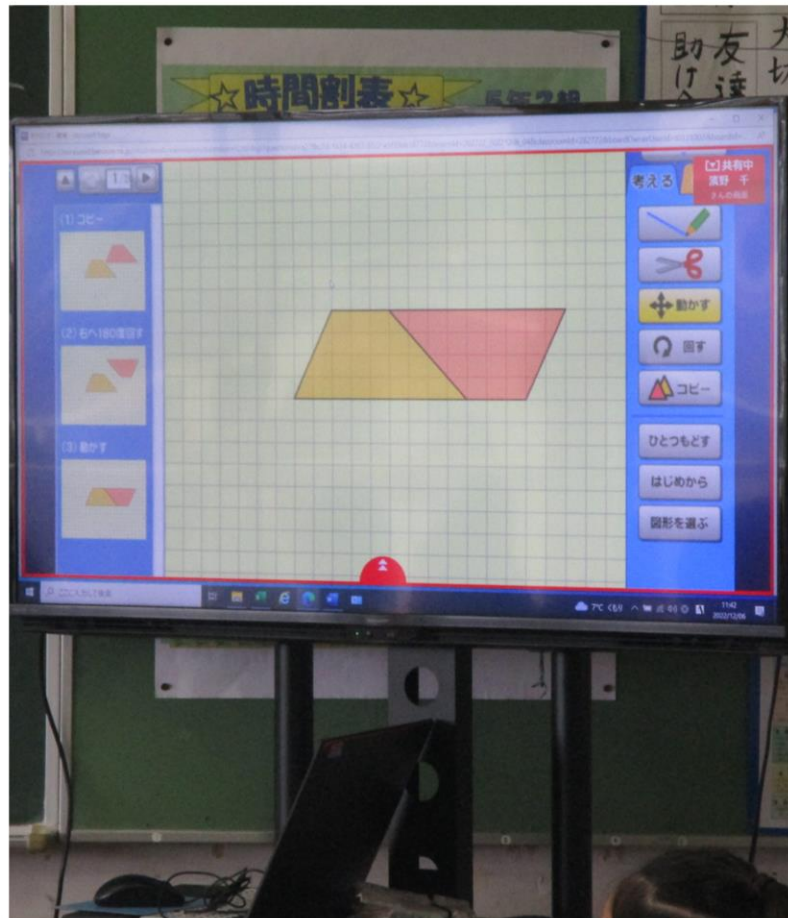
佐倉小学校の実践



Webコンテンツを活用した
個別学習



佐倉小実践



学級全体での
話し合い活動への活用



佐倉小実践

修学旅行の事前学習

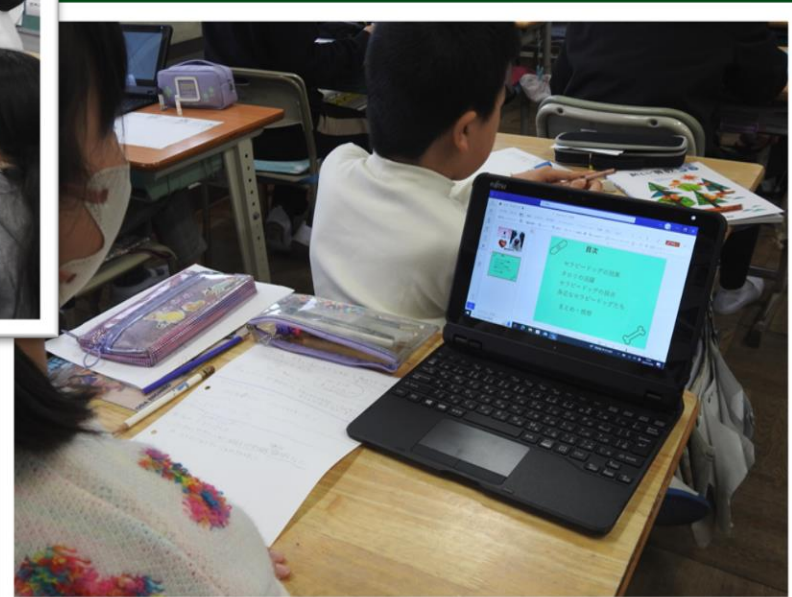
左：オンライン地図を使った経路の検討
右：表計算ソフトを利用した予定作り



佐倉小学校の実践

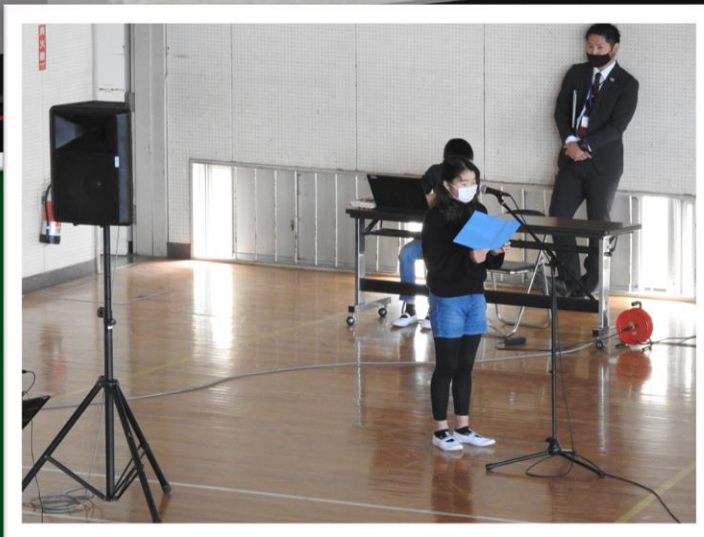


プレゼンテーションソフトを
活用した発表



佐倉小実践

記念式典での児童による プレゼンテーション



令和7年度の目標

児童生徒の目標

ICTを活用し、児童生徒が教師と共に学び方を決める

- 児童生徒が個々の学習状況・内容に応じて学習支援ソフトを選択・有効活用し、他者と協働しながら学ぶことができる。
- 家庭学習でも、学習支援ソフトを活用できる。

令和7年度の目標

教職員の目標

授業にICTを活用して指導する能力 肯定的回答90%以上達成

- 児童生徒の意見を効果的に集約・提示できる。
- 児童生徒の特性や学習進度等に応じ、ICTを活用して指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。
- 児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促す。

家庭との連携

①タブレットを使った家庭学習

- オンラインドリル(ドリルパーク等)を活用した学習
- カメラ機能や文書ソフトによる課題への取り組み等

②オンラインによる学びの保障

- 臨時休業や学級閉鎖等の際にオンライン授業が可能です。

「朝の健康観察」

「リモート授業」

「一日の予定や持ち物等の連絡」